

「皆で、やるべきことを普通にできる」学校を

稜線からの初日だけでなく、今年はスーパームーンを堪能することもできました。皆様方におかれましては、ご家族と共に和やかな正月をお過ごしのこととお喜び申し上げます。

昨年は、保護者・地域の方々の『TEAM花園』（学校運営支援協議会）により、樹木の伐採・階段手すりのペンキ塗り・九九ボランティア・校外学習の引率・読み聞かせ・登下校の見守り等、環境整備・学習支援・生活安全を中心に子どもたちのためにたくさんの活動をしていただきました。地域の皆様の学校に対する篤い愛情を感じました。

本年も『TEAM花園』のお力を借り、「みんなで普通にやるべきことを普通にできる＝思いやりのある」学校づくりに取り組みます。そして、どの子ども「花園小学校は楽しい」と思えるよう、教職員一同『チーム花園』で指導・支援してまいります。その願いを込め、9日の始業式で次のようなことを子どもたちに話しました。

いよいよ、今のクラスで過ごす最後の学期の始まりです。卒業式を迎える6年生にとっては小学校生活最後の3ヶ月です。3月の卒業式・修了式には、クラス全員が「これは花園小学校で一番」とみんなが胸を張って言えるクラスにしたいですね。そのためにも、授業、掃除、係や給食当番などの日常の活動、今年の目標「花小あいうえお」〈㊦歩こう廊下 ㊦移動は静かに ㊦うーんときれいな履き物揃え ㊦笑顔であいさつ ㊦大きな返事〉など、普通にやるべきことを普通にやりましょう。

この普通にやるべきことを普通にできることはとても大事です。それも、自分だけではなく、みんなで普通にできることが大事です。というのは、学校はみんなが安心できる場所、幸せと感じるところですので、自分一人だけの普通、わがままは許されません。みんなにとって普通のことであり、みんなにとって幸せなことではなくてはなりません。そのためにも、相手のことを思いやることが大切です。

この相手を思いやることについて、最後に、イソップ物語の一節（下記に掲載）を紹介し、私の話を終わります。感想の発表や意見交換は、教室に戻ってから担任の先生と一緒にします。それでは、状況を思い描きながら聞きましょう。

「子どもと蛙」 〈菊池寛訳・編『イソップ物語』より〉

ある日のこと、5、6人の子どもたちが池のそばで遊んでいましたが、その中の2、3人が、おもしろ半分に水の中へ石をポンポン投げ始めました。

ところが、池の中にはたくさんの蛙が住んでいたため、子どもたちの投げた石に当たって、ひどいけがをした蛙が大勢ありました。

とうとう我慢できなくなって、蛙の中で一番年をとって利口なのが、池から頭だけを出して、「皆さん、石を投げるのだけは止めてくださいよ」と言いました。

すると子どもたちは、「僕たちは何も悪いことをしているんじゃない。ただ石を投げて遊んでいるだけだよ」と答えました。

しかし年寄りの蛙は、「それはそうでしょうが、皆さんが遊び半分に投げる石で、私たちはひどいけがをします。遊び半分にすることで、他人の命にも関わるような迷惑をかけるなんて、あんまり感心しませんね」と言いますと、子どもたちはもう言い返す言葉もなく、みんなこそこそと向こうの方へいってしまいましたとさ。

本年もご家族、地域、関係機関等の皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

半田市立花園小学校長 藤堂正喜